



SALAMA DAHOLO!

VOL.2
2022.11

✉ YUKI NAKAYA

サラマダウル! みなさん、こんにちは! マダガスカルから第2号目の通信をお届けします。季節が日本とは逆のマダガスカルでは、今がちょうど田植えの時期で、新緑の田園風景がとても綺麗です。

マダガスカルで活動が始まり約3カ月が経ちます。少しずつこの生活にも慣れてきました。今回は、私が活動している任地「アンチラベ (Antsirabe)」について、そして私が任地でどのような活動をしているかについて紹介させていただきます。



【任地アンチラベはどんな所?】



マダガスカルは特殊な気候を持つ島国で、熱帯雨林や海岸、石灰岩が侵食された地帯、高地など、場所によって様々な気候や地形が楽しめます。前回も少しお伝えしましたが、マダガスカルの首都や私の任地アンチラベは中央高地に位置しており、特にアンチラベは標高が1500mと高く、国内で最も寒い地域として知られています。年間の気候は0℃~30℃、日中と夜間の温度差が激しく、夜間は長袖が必要です。

また、ここは「マダガスカル第三の都市」とも言われています。大きいビルはありませんが、街の中心地には美味しい野菜や果物、レストラン、市場、スーパー、チーズやビール工場などもあり、生活には困らない環境です。首都よりも街並みや人柄が穏やかで、日本人よりも気さくな印象を受けます。プスプスと呼ばれる三輪車や人力車が多く、人々の移動手段として人気です。ただ、市場やイベントなど、人が多く集まる場所には窃盗がいたり、その他にも車両整備不良や接触による交通事故、稀に傷害・拉致事件などが起きたりもするため、特に外出時は気をつける必要があります。

【普段の生活】

平日は職場に行き、週末は自由に予定を組んで過ごしています。平日は基本的に朝8時~11時半、午後13時~16時が勤務時間で、家から徒歩15分の場所に職場があるため、徒歩通勤しています。お昼は外で食べる日もあれば、一度家に帰り昼食を取ってから再出勤する日もあります。マダガスカルの食堂「オテリー」では、コンポーゼというプレートが1000アリアリ(約30円)で食べられます。天然ジュースは、今の季節はマンゴー、パインなどが500アリアリ(約15円)で飲めます。通勤路の近くに野菜売り場があるため、食材はそこで買うことができます。青菜やジャガイモ、人参、トマト、ズッキーニなど、ある程度のは揃います。少し歩くと中型スーパーもあるため、乳製品や調味料などはそこで買います。休日はテニスをしたり(コートがあります!）、裁縫をしたり、友達とお出かけしたりして過ごしています。



ルーがなくカレー作りはスパイスを調合 人参をわし掴んで帰宅(一本約3円) 徒歩3時間、峠を越え友人宅に招待される

【マダガスカルでどんな活動をしているの?】

私が働いている職場と要請内容を下記に記載しました。右の写真は配属先(上)と活動先(下)です。現在、私はCPSEという職業訓練校に通い、先生方の授業サポートや新たな授業実践を行っています。

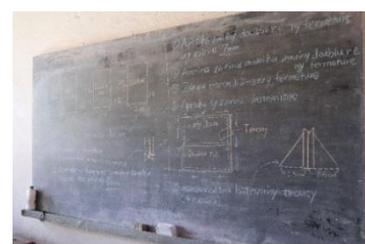
職種	家政・生活改善
管轄省庁	人口・社会保障・女性地位向上省
配属先	ヴァキナンカラチャ県人口・社会保障・女性地位向上局
活動先	CPSE (Centre de Promotion Socio-Economique) =社会経済復興センター(職業訓練校のような場所) ※2022月12月まではCPSEに常駐して活動を行い、 2023年1月以降は様々な学校や団体を巡回して指導を行う予定。
活動内容	① 貧困や落第が原因で学校に通えない生徒が通っている職業訓練校で、14歳~21歳の若者の女性に対して裁縫・文化・料理などの技術指導を行う。また、開講されている編み物、洋裁、刺繍の授業サポートを行う。 ② 女性団体に対し、裁縫技術を中心とした技術指導・講習会等を行い、収入向上や就職のための支援を行う。



CPSEは2学年制の職業訓練校で、男性の木エコース、女性の裁縫コースが開講されています。私は月曜から木曜まで、裁縫コースで同僚の先生のサポートを行い、金曜は裁縫コースの生徒達に向けて自ら授業を行うことになりました。9月下旬に新学期が始まり、生徒と関わって約2カ月が経ちました。これまで授業では、縫い方や編み方が理解できない生徒へアドバイスしたり、私主体の授業ではペンケース、シュシュ、トートバック、巾着袋を作ったり、折り紙、日本語など日本文化の紹介をしたりしてきました。私の目標は、学校や女性団体などに関わり、裁縫や調理技術の指導を通して、仕事がなく困っている人、貧困によって健康な生活ができない人の暮らしを豊かにすることです。ありがたいことに、自分で作った服を着ていると「私にも教えて」と色んな人から声を掛けてもらいます。来年1月からは別の学校や女性団体でも指導する予定のため、教え方や扱う物などをこれからも試行錯誤しながら活動していきたいです。



【言語の高い壁を乗り越えるために】



日本とは言語も文化も違うマダガスカルでは色々な壁がありますが、私にとって一番の壁はやはり言語です。ここでは基本的にマダガスカル語しか通じません。職場に行き始めた9月当初は言葉が全然理解できず、毎日凹んでいました。毎週金曜は私が主体で授業をするため、授業で使う言葉をジェスチャーで同僚に聞いたり、他の先生が使っている単語をひたすらメモして意味を調べたり、毎日生徒と会話をしたりしながら語彙を少しずつ増やしていきました。まだわからない表現もありますが、今は「この単語の意味は何?」と気軽に聞けるような語彙力と関係性を築き、言語を学ぶ効率が上がってきています。「ローマは一日にしてならず」…言語に限らず、何か能力を身に付けるためには時間がかかっても地道に努力するしかないなど改めて感じます。

